

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (4) 研究力の強化に関する事業 (教員の国際的な学会発表に限る。)

申請組織 現代マネジメント学部

申請組織長 役職名 教授・学部長 氏名 植林 茂

統括責任者 役職名 教授 氏名 野崎 祐子

課題名 ジェンダー経済学の研究成果発信と公共経済学における位置付け

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	野崎 祐子	現代マネジメント学部 教授	論文執筆・ポスター作成・学会発表

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

子どもの学力形成や進路選択における家庭内の時間投資の効果、特にその性別差に着目した研究は、教育経済学とジェンダー経済学の交差領域として国際的に高い関心を集めている。申請者は、日本の長期パネルデータ (21 世紀出生児縦断調査 H13 コホート) を用いて、家庭内の時間配分と学業成果・進路選択との因果関係を性別の観点から分析してきた。本事業では、この研究成果を 2025 年 9 月にアイルランド・ダブリンで開催された ISWE Conference on Diversity, Economics and Society 2025 にて発表し、国際的な研究者との議論を通じて論文の質的向上と研究ネットワークの構築を図ることを目的とした。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

本研究では、潜在成長モデリング (LGM) と二段階最小二乗法 (2SLS) を組み合わせ、時間投資の発達軌跡とその教育成果への因果効果を、性別ごとに精緻に推定する手法を採用した。操作変数として家族構成、保護者の就業時間、地域の教育資源を活用し、内生性に対処している点が方法論的な独自性である。発表は ISWE (アイルランド経済学会の女性経済学者部門) とアイルランド中央銀行の共催によるカンファレンスで行い、政策実務の中核機関を会場とすることで、研究成果が政策的関心とも接続される場での発信を実現した。発表形態はポスターセッションであり、個別の深い議論を行う場として活用した。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

2025年9月4日、アイルランド中央銀行にて開催された ISWE Conference on Diversity, Economics and Society 2025 において、ポスターセッションにて“Tracing causal pathways from parental care to university enrollment: gendered analysis with latent growth and IV models”を発表した。当該カンファレンスでは、経済学におけるジェンダーの不平等、労働市場、社会的不平等など多岐にわたるテーマが取り上げられ、LSE (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス) の Almudena Sevilla 教授による基調講演が行われた。報告したポスターには多くの研究者から質問が寄せられ、特に分析手法について活発な議論が展開された。とりわけ Almudena Sevilla 教授からは高い評価を得た。教授からは未刊行の論文が参考資料として提供され、教授が会長を務める SEHO (Society of Economics of the Household) での発表を提案されるなど、帰国後も研究交流が継続している。

また、9月5日には Irish Humanities Alliance 2025 (University College Dublin) のカンファレンス“Feeding the Soul: Transnational Narratives of Food and Belonging”にも参加し、UCD ローズマウント・りんご園 ツアーでの現地調査や、キーノートスピーチを通じて、食文化とディアスポラ・コミュニティの結びつきに関する人文学的考察を深めることができた。この学びは今後の授業におけるフィールドワーク活動の基礎として活用する予定である。

報告論文は、学会での議論を踏まえた修正を進めており、Journal of Human Resources への投稿を予定している。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

① 時間投資	② 学業成果	③ ジェンダー格差	④ パネルデータ
⑤ 操作変数法	⑥ 潜在成長モデル	⑦ 教育経済学	⑧ 家族経済学

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数 (外部・内部) についても明記すること。)

【達成状況】本事業の当初目標であった国際学会での研究報告は計画通り実施された。ISWE カンファレンスでのポスター発表を通じて、国際的な研究者との学術的対話が実現し、特に時間投資と教育成果の因果分析手法に関して有益な助言を得た。基調講演者である Almudena Sevilla 教授 (LSE) からの高い評価と SEHO (Society of Economics of the Household) での発表提案は、当初の期待を上回る成果である。

【今後の課題と取組み】学会で得られたフィードバックをもとに論文を修正し、Journal of Human Resources への投稿を目指す。また、Sevilla 教授との研究交流を継続し、SEHO での発表や将来的な国際共同研究の可能性を模索する。さらに、IHA 2025 カンファレンスでの学びを踏まえ、授業へのフィールドワーク活動の導入を検討する。